

今年の新設住宅着工予測は83.2万戸！

年初、御来社頂いた方から、「2029～33年には新設住宅が46万戸となり、鹿児島県は年間1,800棟くらいになる」というショッキングな話を聞きました。

インターネットで調べてみたら、このデータは商工中金が2014年に発表した20年後の予測データでした。人口減少と空き家ストック量からの試算だそうです。全国では47%の減少ですが、80%以上減少するのは鹿児島県、長崎県、他5県です。逆に沖縄県は人口増が予測され、-8%と全国で一番減少しない県となっています。

他方、野村総研が昨年6月発表した予測では、25年度73万戸、30年度63万戸となっています。それぞれ現状分析の時期、方法が違うのでどちらが正しいかは判りません。

また、矢野経済研究所が本年1月10日発表した今年度の新設住宅着工予測は83.2万戸とありました。19年度が91万戸弱となりそうですからおよそ9%の減となるようです。

新設住宅着工数が60万戸台になるといわれて久しいですが、いよいよ現実化してきます。木造率がどうなるかで構造材の製材や、プレカット加工は影響を受けることとなります。

ZEH等温熱環境や耐震性、耐朽性など建築基準法が厳しくなれば大手ハウスメーカーしか生き残れなくなりそうですが、地域の気候風土に適応した住宅こそが地場の住宅会社に求められるのではないのでしょうか？ 我々木材産業に携わる者は地場の工務店さんといろいろな情報を交換しながら共生できる環境づくりに努めていきましょう。

「うさぎ小屋」と揶揄される日本の住宅ですが、床面積を持家(約37坪)で比較すると、ドイツやフランス(約38坪)と比べても見劣りすることはありません。しかし、ワンルームマンション等を含めた貸家では2/3以下になっています。戸建住宅だけで比較したデータはありませんが、決して卑下することのない大きさだと思います。

(下図参照・平成25年度住宅・土地統計調査資料より)

【情報】

令和元年度鹿児島県森林・林業振興大会が開催されます！

日時 2月6日(木) 13:30～16:00

場所 鹿児島市民文化ホール(第2ホール)

森林の持つ多面的な機能を発揮させる役割を担っている、森林・林業・木材産業の振興と県民参加の森林づくりの推進に資するために、毎年開催されている大会です。

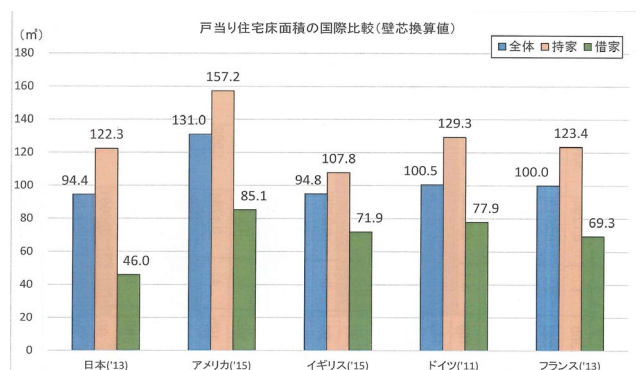
特別講演、事例発表、林産物の展示即売等が行われます。

【定休日】

2月は1, 2, 8, 9, 15, 16, 23日

3月は1, 7, 8, 14, 15, 21, 22, 29日となります

宜しくお願いします



戸当たり住宅面積